れてほしい…そんな想いで工をもっと広く知ってほしい、触 染め上げた糸で作られる「阿が特徴で、中でも藍を使って の技術を復興させた立役者で つて失われつつあったしじら織 た独特の風合いと軽い着心地 ている。明治30年に発足し、 波正藍しじら織」は、国の伝 面に独特のシボ(凹凸)を出し こ)糸の張力差を利用して表 綿織物の経(たて)糸と緯(よ 統工芸品としての指定を受け 阿波しじら織といえば、木 ある同社は、阿波しじら織

ほどの距離で鮮やかな藍色の 備を連巻きにしか見られない 近流行の工場見学などでは設 生地を織り上げていく機械の その迫力に圧倒されるに違い ているものもあるという。 には、50年も前から働き続 止まらぬスピー 大きな音とともに目に ドで次々と

踏み入れれば、きっと誰もが

『長尾織布』の工場に足を

ではない。 抱えた阿波しじら織も例外ダウンの難しさなどの問題を 物を着る機会の減少、コスト 長尾伊太郎代表は言う。着 続けるのは難しい」と同社の あっても、昔のままの姿で売れ「しかしどんな伝統産業で

ら、を切り拓きつつある。

進めてきたり、他にもジャケッ た秋冬用しじら織の開発をデザインや糸の太さを改良し など、阿波しじら織の、、これ スなどへの利用、公募したデザ 織の〝いままで〞。同社はそう 使われてきたのが阿波しじら いった伝統を守る一方で女性用 ンでの女性向けファッション 夏用の和装衣料を中心にその着心地から甚平など 時代に合わせて旧来の伝統 インテリア、女性用ブラウ の開催などにも携わる

藍で染め上げた鮮やかな色は、県民にはおなじ かな阿波しじら織の作品を生み出している。



場の見学を受け入れている。



ていくことに直結するのだ。 そが伝統産業を消さずに守っ に新しい付加価値を加えるこ

と、矛盾するようだが、それこ

POWER of TOKUSHIMA









ベテランの職人たちが慣れた手つきでそれぞれの作業をこなす。見学は無 料、ハンカチを染める藍染め体験は1000円で水曜・金曜は好きなものを 持ち込んでの染色可能。どちらも一週間前までに予約を(日曜は休業)。



長尾織布合名会社 tel.088-642-1228 徳島市国府町和田189 http://www.awa-shijira.com/



店舗では商品の販売を行っている。

